

安倍首相が間伐現場を視察

5月17日(日)、安倍晋三首相は、和歌山県下を訪問し、田辺市中辺路町道湯川の間伐現場を視察しました。

この日訪れたのは、60年生のスギ林の間伐現場で、スイングヤーダによる集材やプロセッサーによる造材について説明を受けた後、プロセッサーに試乗し操作を体験しました。また、緑の雇用扱い手対策を通じて地元の中辺路町森林組合(組合長:岡上哲三さん69歳)に就業した、U/Iターンの作業員とも意見交換を行いました。

中辺路町森林組合は、組合員所有林面積11,000ha、職員7人、作業員45人のうち、U/Iターンで就業した人が19人という組合で、緑の雇用にも熱心に取り組んでいます。

視察現場では、集材や造材の作業について岡上組合長から説明を受けた後、チェーンソーを手に取ったり、プロセッサーに搭乗して玉切りを体験しました。U/Iターンした作業員には、「地元に戻れて良かったですね」「林業にやりがいを感じますか」などと声を掛けていました。

岡上組合長からは、「緑の雇用事業のおかげで人材を育成することができた。皆一生懸命仕事に取り組んでくれるし、伐採や機械の技術も上達して、組合を背負ってくれる存在になっている。」と説明がありました。



プロセッサーに試乗し操作を体験する安倍首相



現場作業員と意見交換する安倍首相



チェーンソーを手に取る安倍首相

日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)の提言

37業種・約200の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成される日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)の森林再生事業化委員会は、6月4日(木)、「次世代林業システム・平成27年度重点政策提言～集約化を根本から推進、五感を通じて木の良さ再発見～」をとりまとめ、米田雅子委員長より、今井敏林野庁長官に手渡しました。

提言は、①次世代林業モデルの実現、②集約化を根本から推進、③木材運搬の増大とバランスの取れたバイオマス利用、④木の良さ再発見の4テーマからなります。このうち、題名になっている②については、集約化の妨げになる所有者不明の森林を減らすため、航空レーザー測量等を活用した「平成のデジタル検地の加速」、④については、五感を通じて木の良さを伝える運動などを展開すべきといった提言がなされています。

委員会は、森林資源を活かし、我が国の林業ため、関係省庁、地方自治体、民間企業が連携し、本提言が実行されることを強く期待しています。



本提言書は、以下よりご覧になれます。 http://www.japic.org/information/2015/06/10/20150604_10.pdf